

# ダイオキシン類の毒性評価実施 WHO



世界保健機構(WHO)は今夏にも、ヒトや哺乳類に関するダイオキシン類の毒性評価のための毒性等価係数(TEF)を見直します。

現在、ダイオキシン類など関連文献に関するデータベースを作成するとともに、各国の主要な研究者に意見照会中で、今年8月にトロントで開催予定のダイオキシン国際会議で専門家会合を開いて議定書案をまとめる予定です。

TEFは様々な異性体のあるダイオキシン類について、最も毒性が強いとされる2,3,7,8-TCDDの毒性を1として各物質の毒性を相対的に示す指標のことを指します。現在では、WHOが1997年に提案したTEFが各国でダイオキシン類の排出量や濃度を把握するため毒性等量(TEQ)算出の際に用いられています。

今回の見直しによって、耐容一日摂取量(TDI)などの関連の基準も、今後影響を受ける可能性があります。環境省では、曝露評価などリスク評価の枠組みにも影響するため、その動向を注視することです。

資料:2005年1月14日付 環境新聞 P.1

クロマト研究箇所 山田 悠貴

事業内容

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析  | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明   | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定     |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理       |
| 4 水道法第20条に基づく水質検査    | 8 委託試験・研究・開発          |

